



百貨店という枠を超えて
街の魅力を高める行動を起こし、
新しい価値を
生み出していきます。

Closeup Interview

クローズアップインタビュー

小宮 仁奈子氏

こみや・になこ

(株)仙台三越 代表取締役社長

プロフィール

1968年7月26日生まれ。東京都出身。フェリス学院大学文学部国文学科を卒業後、1991年4月、(株)伊勢丹入社。2017年4月、執行役員百貨店事業本部三越恵比寿店長に就任。執行役員百貨店事業本部化粧品MD統括部長、執行役員MD統括部ストアクリエイショングループ長などを経て、2022年4月1日より現職。趣味は宝塚歌劇鑑賞。

【概要】

株式会社 仙台三越

代表者 小宮 仁奈子
開店 1933年4月1日
事業内容 全国に「三越」「伊勢丹」を展開する三越伊勢丹ホールディングスのグループ会社として、本館や定禅寺通り館のほか、小型店7店舗を持つ百貨店。
所在地 仙台市青葉区一番町4-8-15
TEL 022-225-7111(代表)
HP <https://www.mitsukoshi.mistore.jp/sendai.html>

「御社は今年4月に、開店90周年を迎えられました。これまでの沿革をお聞かせください。」

仙台三越が11番目の支店として開店したのは1933年で、日本橋の三越も今年で開店350周年という記念の年を迎えています。振り返りますと、弊社は1945年7月の仙台空襲で全焼し、また2011年3月の東日本大震災でも甚大な被害を受けました。しかし、このような困難も皆さまの支えによって乗り越えることができ、現在では本館と定禅寺通り館、七つのサテライト(小型店)がそろって90周年を迎えられたことを心から感謝しています。

また、私たちが90周年を迎えると同時に、弊社の位置する一番町四丁目商店街も70周年を迎えました。そこで、共同で「大誕生祭」の記念フラッグを作成し、商店街に掲出しました。商店街の方々には、これまでも温かく支えていただき、「三越にはこの街のランドマークの役割を担ってもらっている」との言葉もいただきました。また、藤崎さんをはじめとする良きライバルの皆さんからお祝いのメッセージをいただきました。それが大変心温まる内容で、定禅寺通り館の外壁に飾っています。

「現在展開されている、90周年記念事業の内容をお聞かせください。」

90周年の記念事業について考えるときに、90周年を「節目」というよりは、一つの



1933年4月1日に開店した、「三越 仙台支店」の外観。

「通過点」と位置づけ、その先の100周年を見据えて、少しでも若手社員が希望を持てる内容にしたいと思えました。そこで、店内で働く取組先の方や従業員に「仙台三越はどうあつてほしいか」といったアンケートを取り、その中で最も多かったのが「仙台らしさを大切にしたい」という回答でした。この思いを基盤にしてスタートしたのが、「ときめき、つづく。」をテーマにした、これまでに見たことのない仙台三越を仙台らしく表現することでした。

例えば、仙台出身のアーティストである佐々木香奈子氏のインスタレーション(※)を展開したり、東京2020オリンピックの開会式にも出演した、仙台出身のタップダンサーである熊谷和徳氏にご出演いただき、仙台三越ずめ連とのコラボレーションも実現しました。また5月

からは、仙台を拠点に活動するヒップホップグループGAGLE(ガグル)に制作していただいたオリジナルソングを店内音楽として流しています。

弊社のお客さまの中心は60代から70代の方です。そのお客さまに、継続して支えていただきながら、私たちは新たな価値観を持つお客さまを獲得することに注力する時代に突入したと考えています。そこで掲げたのが、「高感度上質消費をしたいときに選ばれるお店になろう」という目標です。例えば、結婚を決めたとき、雛人形や五月人形をそろえるときなど、人生の特別なときに選んでもらえるようなお店になろうということです。時代の変化に適応していくためにも、また百貨店という文化に慣れ親しんでいない若い年代の方々にも選ばれる店になりたい、ならなければなりません。そのためにも、購買記録などから、お客さまの消費行動の分析を進めています。

「これからの地域との関わり方について、お考えをお聞かせください。」

百貨店業界は現在、大変厳しい経営環境にあります。時代の変化とともにお客さまの価値観が変わったことで、以前のように店の中でただ待っていても、足を運んで

「ご自身が社長として、大切にされていることはありますか。」

私は毎朝、店内の各店舗を従業員に挨拶しながら歩くことを日課にしています。店内を回りきるには45分ほど掛かりますが、これをきっかけに、小さいことでも相談してもらえそうな環境が作れば良いと考えています。私も入社当時は店頭で商品売っていたこともあり、朝から晩までずっと店に立ち、一つの商品を売る大変さというのは、身に染みて感じていたので、経営者として、現場の声をすることも大切に行っています。

※インスタレーション：展示空間も含めて作品と見なす手法を用いたアート。

Closeup Interview

お客さまの潜在的なニーズを探り、
三越ならではの提案を通して
信頼される百貨店を目指します。



また、仕事をしていく上ではプライベートも重要だと考えており、休日には大好きな宝塚歌劇の舞台を見るために色々な場所に足を運んでいます。舞台の間は何も考えずに集中することができるので、とても良いリフレッシュになるのです。その他には、他県の友人を仙台に招いて観光地を案内することもよくあります。人に教えてもらった場所に「今度友人に紹介してあげよう」となどと考えながら一人で行ってみるのも面白いです。

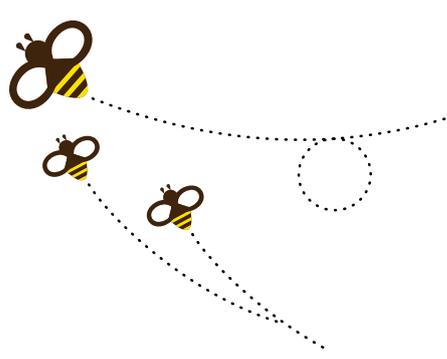
こうして楽しむ姿も周りに見せることで、社長だからといって仕事二辺倒なわけではなく、ワークライフバランスを大切にしているのだということを示せればと考えています。

最後に、今後の抱負をお聞かせください。

昨年社長に就任したのを機に、仙台三越の歴史をひもとしてみました。すると開店当時の経営方針が見つかったのですが、記載してある内容が現在、私たちが注力していることと、変わらないことに驚きました。内容は、「三越の『のれん』を東北に知らしめること」「東北の良いものを広めること」「地域の発展に貢献すること」「人材発掘をすること」です。

百貨店として、店舗の中に商品がそろっていないことも、できることはまだまだあると考えています。例えば、弊社ではラグジュアリーブランドの商品に限らず、家や車などの百貨以外のものでも仲介することができます。三越としての「のれん」の価値を強みとして生かし、私たちが持つネットワークも駆使することで、お客様の商品をご用意します。お客さまの潜在的なニーズを探り、真に喜んでいただけるご提案を通して、「三越にあれば解決してもらえる」と、信頼を寄せてもらえる百貨店になることを目指していきます。

今後の事業としては、9月20日から秋のファッションや食などをご提案する「彩り祭」のほか、10月4日からは書道家で現代アーティストの武田双雲氏の展覧会を開催する予定です。引き続き、お客さまに喜んでいただくための取り組みを展開していきますので、ぜひ、足をお運びください。



より良い環境をめざす。

青葉環境保全 Aoba

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)